

WinShell 3.0 ヘルプ日本語訳

Ingo H. de Boer

日本語訳: 田中 健太^{*1}

October 11, 2005

日本語訳リリース: 2006年1月12日

^{*1} http://www.geocities.jp/tanaken_1018/

目次

第 1 章	イントロダクション	3
1.1	WinShell とはなにか	3
1.2	インストール方法	3
1.3	WinShell 2.6 から改良された点	5
1.4	WinShell 3.0 の特徴	6
1.5	費用	6
1.6	その他にいくつか	7
1.7	さあはじめよう	7
第 2 章	メニュー	9
2.1	[ファイル] メニュー	9
2.2	[編集] メニュー	11
2.3	[実行] メニュー	13
2.4	[オプション] メニュー	16
2.5	[プロジェクト] メニュー	20
2.6	[ウィンドウ] メニュー	22
2.7	[説明と情報] メニュー	22
第 3 章	使いかた	25
3.1	コマンドラインから起動する	25
3.2	表作成ウィザードを使う	25
3.3	ツールを追加する	26
3.4	マクロを追加する	28
3.5	ツールバーの設定	29
3.6	プロジェクトの設定	30
3.7	スペルチェッカーを使う	31
第 4 章	今後の予定とバグ報告	33
4.1	今後の予定	33
4.2	バグ報告	33
第 5 章	この文書について	35

5.1	日本語訳についての情報	35
5.2	ご意見・ご感想	35
5.3	改変履歴	35

第 1 章

イントロダクション

1.1 WinShell とはなにか

WinShell は、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ や $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ に関する作業を容易にする、無料の統合環境 (IDE) です。この中には、テキストエディタや特別なツールバー、ユーザが自由に設定できるオプションが含まれています。ただし、WinShell は $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ システムそのものではありません。 $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ パッケージは別個にインストールする必要があります。

1.2 インストール方法

訳注

各種ソフトウェアのインストール方法について、日本の実情に即した記述に改めた。また、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ パッケージと関連するソフトウェアについては、東京大学の阿部さんが開発した「 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ インストーラ 3」(<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~abenori/tex/tex0.html>) を使用すると、容易に導入することができる。

1.2.1 $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ パッケージ群

まずなによりも、 $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ パッケージが必要です。一般的には、近畿大学の角藤さんが配布している、 $\text{W32T}_{\text{E}}\text{X}$ をインストールするのがよいでしょう。一次配布元は <http://www.fsci.fuk.kindai.ac.jp/kakuto/win32-ptex/> ですが、多くのサーバが $\text{W32T}_{\text{E}}\text{X}$ をミラーしているので、以下に示すミラーサーバから入手するとよいでしょう。

- Ring サーバ:

<http://www.ring.gr.jp/archives/text/TeX/ptex-win32/current/>

- 東京大学: <ftp://akagi.ms.u-tokyo.ac.jp/pub/TeX/win32/>
- 会津大学: <ftp://ftp.u-aizu.ac.jp/pub/tex/ptex-win32/current/>

なお、インストールの手順については、**TEXWiki** (<http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/texwiki/>)などを参考にしてください。

1.2.2 Postscript ビューア

Postscript 形式の画像ファイルを表示したり **TEX** 文書に挿入するには、**Ghostscript** というソフトウェアが必要です。また、**Ghostscript** の GUI フロントエンドである **GSview** があると便利です。日本語に対応した **Ghostscript** を角藤さんが配布しています。**Ghostscript** は **Ring** サーバ (<http://www.ring.gr.jp/archives/text/TeX/ptex-win32/gs/>) などから入手しましょう。**GSview** については、**CTAN** (**Ring** ミラー: <http://www.ring.gr.jp/archives/text/CTAN/support/ghostscript/ghostgum/>) から入手します。

1.2.3 PDF ビューア

PDF ファイルを表示するには、以下の2つのソフトウェアを用いるのが一般的です。

- **GSview**: 前述
- **Adobe Reader**:

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

1.2.4 スペルチェッカー

英語をはじめとする各言語のつづりをチェックするソフトウェアとして、**ASpell** が利用できます。<http://www.ring.gr.jp/archives/GNU/aspell/w32/> などから入手し、インストールします。

1.2.5 WinShell

WinShell は、**ZIP** アーカイブ形式か、セットアップファイルで入手することができます。どちらか一方だけで充分です！

- **ZIP** アーカイブの場合: アーカイブを適当な場所で展開し、**WinShell.exe** を実行してください。
- セットアップファイルの場合: セットアップファイルは **WinShell** プログラム群を指定したディレクトリにインストールします。デフォルトは

C:\Program Files\WinShell です。また、レジストリに `.tex` ファイルと `.wsp` ファイルの関連付けを登録します。

WinShell がはじめて起動したときには、以下の設定ファイルが作成され、一般的には各ユーザのプロファイルディレクトリに保存されます (OS のバージョンによって異なる場合があります)。

- WinShellMacros.bmp
- WinShellUserTools.bmp
- WinShell.ini
- WinShell.macros
- WinShellDict.txt

WinShell は、`LATEX` バイナリのパスを、レジストリを検索して探します。そのため、`LATEX` バイナリのパスを環境変数 `PATH` か `Autoexec.bat` ファイルで設定しておく必要があります。この動作のため、`LATEX` 環境を構築する際には、WinShell は最後にインストールしなければいけません。

1.3 WinShell 2.6 から改良された点

これまでの安定バージョン 2.6 系と比較して、3.0 ではいくつかの修正と機能の追加がおこなわれました。例を挙げると

- 中国語メニューのサポート
- GUI メニューの国際化を容易にする新しい方法の導入
- Windows 98 における問題の修正
- 画面分割のサポート
- 「編集」メニューに「やり直し」と「すべて選択」を追加
- ウィンドウのタブやテキスト編集ウィンドウ、ログウィンドウにおいて、マウスの右クリックでメニューが表示可能になった
- 「別名でプロジェクトの保存」ダイアログにおいて、選択したファイルがすでに存在していた場合のメッセージを表示しないようにした
- ユーザ指定プログラムにおいて、`%ex` で現在の拡張子を指定できるようにした
- `MikTEX` において、`pdflatex` 実行時のエラーが表示されないことがあった問題の修正
- 文献リストにおけるエントリが並べ替えられるようになった
- テキスト選択時の反転色を変更した

- ボタンの非グループ化機能を追加した (訳注: 詳細は不明)
- GUI ライブラリである **Flicker-free drawing** の機能向上

1.4 WinShell 3.0 の特徴

WinShell 3.0 の特徴として、

- メニュー表示における多言語サポート (中国語、チェコ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポーランド語、スペイン語、スウェーデン語、日本語)
- プロジェクト管理環境 (目次、図表、文献リストの統合管理)
- **Aspell** をもとに拡張されたスペルチェッカー
- 文献管理機能
- 前方・後方検索
- 作表ウィザード
- **L^AT_EX** 関連プログラムのワンボタン起動
- タブによる複数ファイルの表示
- プロジェクト全体やログを表示できるウィンドウ
- ユーザが起動プログラムを追加できる
- 記号入力支援・ユーザ指定など各種ツールバーの設定・変更が可能
- マクロを組める
- 表示フォントを選択可能
- **Windows** と **UNIX** の文字コードを解釈できる
- コマンドラインから起動できる
- **L^AT_EX** コマンドや構文のハイライト
- 指定文字数での自動折り返しモード
- ドラッグアンドドロップでの編集

……などが挙げられます。

1.5 費用

このソフトウェアは、実行可能なバイナリ形式で、“あるがまま”に無料で提供されるものです。ソースコードを入手することはできません。そのため、**T_EX** の分類カタログにおいては、‘**nosource**’ と区分けされるものです。

私 (開発者) がこの **WinShell** プロジェクトにどれだけのお金を費やしているかは明らかではありませんが、**Web** サーバの運営費、**WinShell** の開発とテストに使用する新しい

OS やソフトウェアの購入代金などは、非常に高額なものとなっています。あなたが私にいくらかの資金を寄付してくださったり、この WinShell プロジェクトを管理運営していることに感謝していただければ幸いです。

ただし、もしあなたが私に寄付をしてくださるとしても、それはそれでとてもありがたく受け取らせていただきますが、それによってあなたを特別に厚遇するようにはなりませんのでご了承ください。

詳しくは、私にお問い合わせください。

1.6 その他にいくつか

これらのことを覚えておいてください。

1. 私にメールで問い合わせる前に、このマニュアルをよく読んでください。たいいてい
の答えを見つけることができます
2. L^AT_EX についてのヘルプ文書もこの配布には含まれています
3. 実際にやってみなきゃなにもわかりませんよ！

1.7 さあはじめよう

L^AT_EX システムが正しくインストールできているならば（「インストール方法」参照）、さっそくはじめましょう！

画面上にコントロールバー（訳注: [ファイル] などのバーか？）やツールバーが表示されています。これらは自由に移動させたり、伸縮させて見えなくしたりすることができます。変更した状態は WinShell の終了時に自動的に保存され、次回の起動時に再現されます。

L^AT_EX 関連のプログラムやコマンドラインプログラムの設定は、[オプション]-[主な TeX 関連プログラムの設定] からおこないます。

WinShell にはデモ用のプロジェクトが同梱されていますので、まずはそれを読み込んでみましょう。デモファイルは（インストールディレクトリ）/demo 下に入っています。ファイルを開いてツールバーの L^AT_EX ボタンを押すとコンパイルされます。出力を表示するには、DVI ボタンを押して dvi ファイルを表示するか、PS・PDF ファイルを作成して表示します。デモプロジェクトでなにかエラーメッセージが出るようであれば、L^AT_EX パッケージが正常にインストールされていないのかもしれませんが。

第 2 章

メニュー

2.1 [ファイル] メニュー

2.1.1 新規

WinShell で編集する文書を新規に作成します。キーボードショートカットは **CTRL + N** です。

2.1.2 開く

すでにある文書ファイルを、新しいウィンドウ（タブ）で開きます。キーボードショートカットは **CTRL + O** です。

WinShell で対応しているファイルタイプ

- WinShell ファイル (*.wsp, *.tex, *.bib, *.log)
- プロジェクトファイル (*.wsp)
- T_EX ファイル (*.tex)
- Bib ファイル (*.bib)
- ログファイル (*.log)
- すべてのファイル (*.*)

2.1.3 閉じる

アクティブな（前面に表示されている）ファイルを閉じます。WinShell はその際に文書の状態を自動的に保存します。名前をつけていないファイルを閉じるときには、「ファイル名をつけて保存」ダイアログがあらわれますので、ファイル名を入力してください。

キーボードショートカットは **CTRL + W** です。

2.1.4 保存

アクティブなファイルを、ファイル名、保存場所を変えずに保存します。新規作成したファイルを保存するときには、「ファイル名をつけて保存」ダイアログがあらわれますので、ファイル名を入力してください。キーボードショートカットは **CTRL + S** です。

2.1.5 別名でプロジェクトの保存

アクティブなファイルを、ファイル名や保存場所を変えて保存します。「ファイル名をつけて保存」ダイアログがあらわれますので、ファイル名を入力してください。上記の「保存」メニューは、ファイルの名前や保存場所を変えずに保存するときに使用します。

2.1.6 すべてのファイルを名前をつけて保存

このコマンドでは、現在アクティブなすべてのファイルを名前をつけて保存します。新規作成したファイルを保存するときには、「ファイル名をつけて保存」ダイアログがあらわれますので、ファイル名を入力してください。(訳注: そのようなメニューは見当たらないのだが……)

2.1.7 プリンタの設定

プリンタの設定をおこないます。標準の「プリンタの設定」ダイアログが表示されますので、設定の変更などをおこなってください。

2.1.8 印刷

アクティブなファイルを印刷します。ここで印刷されるのは **TeX** のソースファイルです！ コンパイルして整形された **dvi** ファイルや **PS** ファイルではありません。キーボードショートカットは **CTRL + P** です。

2.1.9 終了

WinShell を終了します。文書を閉じる場合には [閉じる] メニューを使用したほうがよいでしょう。[オプション]-[一般] メニューで [終了時に自動保存] にチェックを入れている場合、終了時に保存されていない文書の保存を試みます。キーボードショートカットは

ALT + F4 です。

2.2 [編集] メニュー

2.2.1 元に戻す

可能であれば、もっとも最近に編集した操作を取り消します。キーボードショートカットは CTRL + Z です。

2.2.2 再実行

可能であれば、もっとも最近の [元に戻す] 操作を取り消します。キーボードショートカットは CTRL + Y です。

2.2.3 切り取り

選択されたテキスト（背景色が変わります）を切り取り、クリップボードにコピーします。テキストを選択していない場合には実行できません。また、クリップボードにコピーされたテキストは、それ以前にコピーされていた情報を上書きします。キーボードショートカットは CTRL + X です。

2.2.4 コピー

選択されたテキスト（背景色が変わります）をクリップボードにコピーします。[切り取り] と異なり、選択されたテキストはそのまま残ります。テキストを選択していない場合には実行できません。また、クリップボードにコピーされたテキストは、それ以前にコピーされていた情報を上書きします。キーボードショートカットは CTRL + C です。

2.2.5 貼り付け

クリップボードにコピーされている情報（テキストのみ。画像などは貼りつけ可能だが無意味）をカーソル位置に挿入します。クリップボードに何もコピーされていない場合には実行できません。キーボードショートカットは CTRL + V です。

2.2.6 削除

選択されたテキストを削除します（クリップボードにはコピーされません）。キーボードショートカットは **Delete** です。

2.2.7 全選択

アクティブな文書中のすべてのテキストを選択します。キーボードショートカットは **CTRL + A** です。

2.2.8 検索と置換

検索

アクティブな文書中から、指定した文字列を検索します（訳注: このメニューは言語を日本語にした場合、文字が表示されず使い辛い）。

ダイアログ中の「正規表現」にチェックが入っていない場合、前方検索か後方検索かを選択できます。「正規表現」にチェックが入っている場合には、検索方向にどちらが指定されていても、前方から後方へ向けて検索します。

キーボードショートカットは **CTRL + F** です。

次を検索

現在の位置から次に検索文字列にマッチする文字列を検索します。前方か後方かは、[検索] ダイアログで指定します。キーボードショートカットは **F3** です。

置換

アクティブな文書中の、ある文字列を他の文字列に置き換えます。キーボードショートカットは **CTRL + H** です。

2.2.9 指定行へ移動

小さなダイアログが開きます。アクティブな文書において、移動したい先の行番号を入力するとそこへ移動します。キーボードショートカットは **CTRL + G** です。

2.2.10 注釈による無効化 / 無効化の解除

選択した範囲のテキストを、コメントアウトします。またはその解除をおこないます。L^AT_EX のコメント文字列である **%** を選択範囲の行頭に挿入します。または行頭の **%** を取

り去ります。テキストを選択していない場合には実行できません。キーボードショートカットは CTRL + K です。

2.3 [実行] メニュー

2.3.1 L^AT_EX (dvi ファイルの作成)

L^AT_EX メニューを実行すると、[中心となる T_EX 文書] (画面下のステータスバーに表示される) をコンパイルします。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な T_EX 関連プログラムの設定] メニューで設定します (一般的には “%s.tex” をファイル名に指定する)。設定メニューの [DOS] チェックボックスは、MS-DOS プログラムの実行結果を WinShell のログウィンドウに表示させるかどうかを指定します (訳注: チェックを外すとログウィンドウに表示しない、つまり DOS 窓が表示される)。キーボードショートカットは F5 です。

2.3.2 BibT_EX

このメニューを実行すると BibT_EX を実行します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な T_EX 関連プログラムの設定] メニューで設定します (一般的には “%s” をファイル名に指定する)。設定メニューの [DOS] チェックボックスは、MS-DOS プログラムの実行結果を WinShell のログウィンドウに表示させるかどうかを指定します。キーボードショートカットは F6 です。

2.3.3 DVIView

DVIView メニューを実行すると、[中心となる T_EX 文書] の dvi ファイルを表示します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な T_EX 関連プログラムの設定] メニューで設定します (一般的には “%s.dvi” をファイル名に指定する)。

このメニューにはもうひとつ [L^AT_EX を先に実行] オプションを指定することができます。L^AT_EX 文書が更新されたにも関わらず、コンパイルされていないと、dvi ビューアは古い状態の dvi ファイルを表示します。このオプションはこれを避けるためにあります。オプションをチェックしていると、文書を更新してから DVIView ボタンを押すと、L^AT_EX メニューが先に実行されます (訳注: 相互参照などを考慮した複数回コンパイルまではやってくれない)。キーボードショートカットは F7 です。

前方・後方検索

WinShell と dvi ビューアの間で、source special を用いて、文字列の検索ができます。検索においては、以下のワイルドカードが使用できます。

- %l 現在の行
- %s 中心となる TeX 文書
- %c 現在編集中心の文書

pL^AT_EX 2_ε と dviout との間で、source special を有効にするには、[実行] メニューの項目を以下のように修正します。

- [オプション]-[主な TeX プログラムの設定]-[L^AT_EX]
コマンドライン: `-src "%s.tex"`

また、dviout の側では、[Option]-[Setup Parameters]-[Common]-[src:] に以下のように記述します。

- `-src: C:\Program Files\WinShell\WinShell.exe ^ s-c "%s" -l %d`

2.3.4 DVIPS

DVIPS メニューでは [中心となる TeX 文書] の dvi ファイルから PostScript ファイルを作成します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な TeX 関連プログラムの設定] メニューで設定します（一般的には “%s.dvi” をファイル名に指定する）。設定メニューの [DOS] チェックボックスは、MS-DOS プログラムの実行結果を WinShell のログウィンドウに表示させるかどうかを指定します。設定をおこなう際に、例えば “-D600 %s.dvi” とすると、600dpi の解像度を想定した出力が得られます（詳しくは dvips(k) のオプションを参照）。キーボードショートカットは F8 です。

2.3.5 GSview

GSview メニューを実行すると、[中心となる TeX 文書] の PostScript ファイルを表示します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な TeX 関連プログラムの設定] メニューで設定します（一般的には “%s.ps” をファイル名に指定する）。

このメニューには [L^AT_EX を先に実行]、[DVIPS を先に実行] の 2 つのオプションを指定することができます。文書が更新されたにも関わらず、L^AT_EX と dvips(k) でコンパイルされていないと、GhostView は古い状態の PostScript ファイルを表示します。このオプションはこれを避けるためにあります。オプションをチェックしていると、文書を更新し

てから **GSview** ボタンを押すと、**L^AT_EX** メニューと **DVIPS** メニューが先に実行されます。キーボードショートカットは **F9** です。

2.3.6 PDFL^AT_EX

PDFL^AT_EX メニューを実行すると、[中心となる **T_EX** 文書] をコンパイルします。**PDFL^AT_EX** では、**T_EX** ファイルを **PDF** ファイルへ変換します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な **T_EX** 関連プログラムの設定] メニューで設定します（一般的には “**%s.tex**” をファイル名に指定する）。設定メニューの [**DOS**] チェックボックスは、**MS-DOS** プログラムの実行結果を **WinShell** のログウィンドウに表示させるかどうかを指定します。キーボードショートカットは **F10** です。

なお、**Adobe Reader** を **PDF** ファイルビューアとしていて、編集集中の文書を開いている場合、**PDFL^AT_EX** メニューを実行すると、**Adobe Reader** が閉じられます。これは、**Adobe Reader** が **PDF** ファイルをロックして（**PDFL^AT_EX** による）更新をさせないようにしているためです。

訳注: 現在のところ、インストールしただけの **PDFL^AT_EX** では日本語を扱うことができない。そのため、このメニューを適切に設定しても、期待される実行結果は得られない。なお、この項目に **dvipdfmx** などほかのプログラムを指定すれば、「編集集中のファイルを **PDF** に変換する」という目的は達せられる。

2.3.7 PDFView

PDFView メニューを実行すると、[中心となる **T_EX** 文書] の **PDF** ファイルを表示します。コマンドとコンパイルするファイル名は、[主な **T_EX** 関連プログラムの設定] メニューで設定します（一般的には “**%s.pdf**” をファイル名に指定する）。

このメニューには [**PDFL^AT_EX** を先に実行] オプションを指定することができます。文書が更新されたにも関わらず、**PDFL^AT_EX** でコンパイルされていないと、**PDF** ビューアは古い状態の **PDF** ファイルを表示します。このオプションはこれを避けるためにあります。オプションをチェックしていると、文書を更新してから **PDFView** ボタンを押すと、**PDFL^AT_EX** メニューが先に実行されます。キーボードショートカットは **F11** です。

2.3.8 スペルチェック

スペルチェックメニューを実行すると、現在編集集中の文書について、スペルチェックをおこないます。この機能は **ASpell** (<http://aspell.net/win32/>) を利用しています。

なお、**ASpell** のバイナリと辞書はすでにインストールされているものとします（インス

ツール法については 1.2.4 節を参照してください)。また、スペルチェッカーの使用法については 3.7 節を参照してください。ショートカットキーは **F12** です。

2.3.9 表の作成

表の作成支援ウィザードを起動します。望み通りの表を作成するには、3つの段階を踏みます。入力が終了すると、編集中の文書のカーソル位置に表のコマンドが挿入されます。詳しくは、3.2 節を参照してください。

2.4 [オプション] メニュー

2.4.1 WinShell 一般

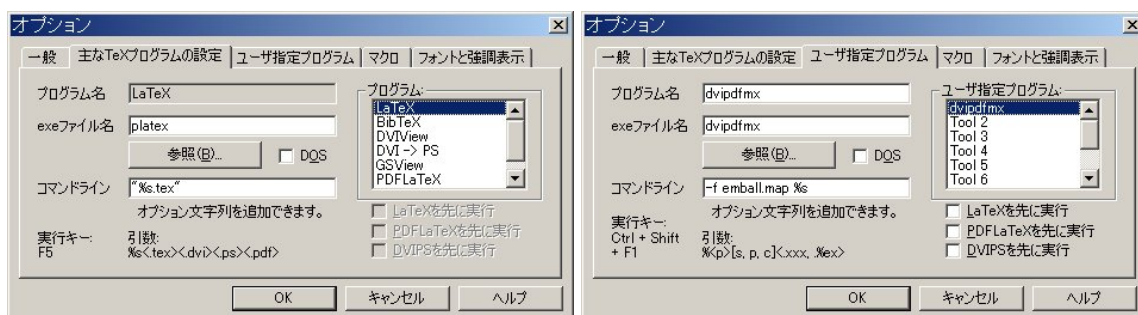
最初のチェックボックス（バックアップ（bak）ファイル作成）がチェックされていると、それぞれの **T_EX** ファイル（.tex）についてバックアップが作成されます。2つめのチェックボックス（終了時に自動保存）がチェックされている場合、WinShell 終了時に開いている文書を、自動的に保存します。このチェックがされていない場合、終了時に文書を保存するかどうか、ダイアログが表示されます。

訳注: 「ファイルを最大化して開く」チェックボックスについては、WinShell 3.0.0.3 において存在しなかったのが割愛する。

「ファイル形式」のメニューでは、文書ファイルの改行コードを指定することができます。「Windows 形式」では CRLF、Unix 形式では LF であるとされます（**訳注:** これは改行コードの指定だけなので、EUC-JP や ISO-2022-JP のテキストを扱えるようになるわけではない。WinShell では Shift_JIS のみ使用できる）。

また、WinShell のメニューの表示言語もこのメニューで指定することができます。詳しくは 2.4.4 節を参照してください。

2.4.2 主な T_EX プログラムの設定およびユーザー指定のプログラム



このメニューでは、**L^AT_EX** メニューや **BibT_EX** メニューで実行されるコマンドラインプログラムやオプションを指定します。ここでは、それぞれのプログラムに対応した拡張子を指定することが重要です。ここで指定できる `%<p>[s, p, c]<.xxx, .%ex>` という文字列には、以下のような意味があります。

- `%s` ステータスバーに表示されている [中心となる **T_EX** 文書] のファイル名に展開されます
- `%ps` ステータスバーに表示されている [中心となる **T_EX** 文書] までのフルパスとファイル名に展開されます
- `%pp` プロジェクトファイルまでのフルパスに展開されます
- `%c` 現在前面で表示している文書のファイル名に展開されます
- `%pc` 現在前面で表示している文書までのフルパスとファイル名に展開されます
- `xxx tex` や `bib` といった、ファイルの拡張子を意味します (これは適切なものを適宜記入するという意味)
- `%ex` 現在前面で表示しているファイルの拡張子に展開されます

DOS チェックボックスにチェックをつけると、MS-DOS アプリケーションの実行結果を WinShell の出力ウィンドウに表示します。

ユーザー指定のプログラムの設定例

`makeindex` (日本語対応されたものは `mendex`) を追加するには、プログラム名の欄に `Makeindex` と入力し、`exe` ファイル名の欄には `mendex` とします。コマンドラインの欄には `"%s.idx"` と入力します。`mendex` の設定では「**L^AT_EX** を先に実行」、「**PDFL^AT_EX** を先に実行」、「**DVIPS** を先に実行」のボックスにはチェックしないようにしてください。DOS チェックボックスにチェックをつけると、実行結果を WinShell の出力ウィンドウに表示します。

次におこなうこと: [WinShell の外観] メニューから、設定したメニューをツールバーに表示されるように設定しましょう (詳しくは 3.3 節を参照してください)。

2.4.3 マクロ

WinShell では 10 個のマクロを設定することができます。指定したキーを押すか、マクロバーのボタンを選ぶことで、現在のカーソル位置にマクロ文字列を挿入することができます。<cur> というタグをマクロの中で使うことで、マクロ挿入後にカーソル位置を指定した場所に移動させることができます。

次におこなうこと: [WinShell の外観] メニューから、設定したメニューをツールバーに

表示されるように設定しましょう（詳しくは 3.4 節を参照してください）。

キーボードショートカットは、**Ctrl + Shift + F1...F10** です。

2.4.4 言語

インターフェースの言語を設定します。WinShell で設定できる言語は、中国語、チェコ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポーランド語、スペイン語、スウェーデン語、そして日本語です。

他の言語を使用するためには、以下の手続きを踏んで言語ファイルを作成してください。

1. **translation** ディレクトリに移動します
2. **'en.txt'** を **'xx.txt'** のように、作成したい言語のコード名に合わせた名前で作成します
3. **'xx.txt'** をエディタで開き、右側のメニュー項目を編集していきます
4. **translations.txt** を開き、**'xx : Language'** という文字列を追加します
5. WinShell を起動し、言語ファイルに問題がないかチェックをおこないます

2.4.5 フォントと強調表示

表示フォントを変更したり、**L^AT_EX** コマンドの強調表示をおこなうかどうか設定できます。[**L^AT_EX** 命令]、[角カッコ]、[**\begin... \end**]、[% 注釈]、[\$ 数学モード]、[通常の文字]、[選択したテキスト]、[カーソル]、[背景] のそれぞれの項目について、強調する際の色を指定することができます。

また、[対応する括弧を強調表示] にチェックすると、カーソルが括弧にあるときに、それに対応する括弧が太く強調されて表示されます。

2.4.6 折り返しを有効にする

テキストを画面の端で折り返すかどうかを設定することができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、折り返しが有効になっています。

2.4.7 行番号

画面の左端に行番号を表示するかどうかを設定することができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、行番号表示が有効になっています。

2.4.8 Umlaute

ドイツ語を選択したときのみ選択可能になる機能で、ウムラウトのつけ方を設定することができます。(キーボードの?) **Umlaute** キーを押すと、ダイアログが開きます。

2.4.9 WinShell の外観

ユーザ設定

ツールバーとマクロバーの外観をカスタマイズすることができます。カテゴリー欄には、全部で7つのカテゴリーがあります。最初の5つは、**WinShell** 標準のボタン群です。6つめのカテゴリーはユーザー指定のプログラム、7つめはマクロです。カスタマイズの方法は、他の一般的なプログラムと同様、簡単です。まず、カテゴリーを選びます。それから、ボタンをクリックし、説明を読んだ上でツールバー上の表示させたい場所にドラッグします。

ユーザー指定のプログラムをツールバーにドラッグした時、およびマクロをマクロバーにドラッグした時には、ボタンの表示方法を設定するダイアログが開きます。詳しくは [3.3 節](#) を参照してください。

プロジェクトウィンドウ

プロジェクトのアウトラインを表示するかどうかを設定することができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、プロジェクト表示が有効になっています。

出力ウィンドウ

コンパイルログなどを出力ウィンドウに表示するかどうかを設定することができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、出力ウィンドウが有効になっています。

出力ウィンドウに表示されるエラーメッセージや情報は、別のプログラム (**L^AT_EX** など) によって出力されています。**WinShell** でそれらを修正したり、テキスト入力をおこなうことはできません!

ツールバー

ツールバーは、アプリケーションの上方、メニューバーの下に表示されています。ツールバーからマウスで操作することで、**WinShell** の各機能が簡単に使用できます。

ツールバーの表示切替えは、ツールバーの [オプション]-[WinShell の外観] メニューから変更できます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、ツールバーが表示されます。

ステータスバー

キーボード入力や、メニューやツールバーから選択した動作を表示するステータスバーの表示を切替えることができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、ステータスバーが表示されます。

ステータスバーの表示切替えは、ツールバーの [オプション]-[WinShell の外観] メニューから変更できます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、ステータスバーが表示されます。

ステータスバーの左側には、メニューから選択して実行している項目が表示されます。右側には、[中心となる TeX 文書] のカーソル位置の行番号が表示されます。

その他のバー

その他のバーの表示を切替えることができます。メニューの横にチェックマークが表示されているときは、指定したバーが表示されます。それぞれのバーには、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ でもっともよく使うコマンド群が割り当てられています。

左から順に紹介すると、矢印バー、二項演算子バー、アクセントバー、関係子バー、ギリシャ文字バー、その他の記号バー、マクロバーとなっています。それぞれのバーについて、詳しくは 3.5 節を参照してください。

2.5 [プロジェクト] メニュー

2.5.1 新規プロジェクト

新規に WinShell プロジェクトを作成します。プロジェクトの名前を入力するダイアログが開きます。そのあと、[中心となる TeX 文書]、[オプション] としてその他の TeX 文書、BibTeX 文書を指定することができます。詳しくは 3.6.1 節を参照してください。[中心となる TeX 文書] のファイル名は、ステータスバーの右側に表示されます。

2.5.2 プロジェクトの呼び出し

作成済みのプロジェクトを読み込みます。[中心となる TeX 文書] のファイル名は、ステータスバーの右側に表示されます。プロジェクトウィンドウには

- ファイル名
- 目次 (存在しているなら)
- 図番号とキャプション (存在しているなら)
- 表番号とキャプション (存在しているなら)

- 文献リスト (存在しているなら)

といったアウトラインが表示されます。プロジェクト機能の詳細な使いかたについては、3.6節を参照してください。

2.5.3 プロジェクトを閉じる

現在開いているプロジェクトを終了します。文書に変更があった場合には自動的に保存されます。名前をつけていないファイルを閉じるときには、「ファイル名をつけて保存」ダイアログがあらわれますので、ファイル名を入力してください。

2.5.4 プロジェクトの保存

現在開いているプロジェクトに名前を付けて、あるいは新しいファイル名で保存します。[名前を付けて保存]ダイアログが表示されますので、ファイル名を入力してください。

2.5.5 プロジェクトに追加

プロジェクトに新たなファイルを追加する場合には、このメニューを使います。[中心となる TeX 文書]を変更することは、このメニューではできません。このメニューでは、プロジェクトにファイルを追加するか、プロジェクトからファイルを削除するか選択します。ファイルを削除するには次のようにします。まず、削除したいファイルをプロジェクトウィンドウで選択します。それから、マウスで右クリックするとダイアログが開きますので、削除を選択するとファイルをプロジェクトから削除することができます。

2.5.6 中心となる TeX 文書を追加

現在の [中心となる TeX 文書] をアクティブなプロジェクトに追加します。追加したファイルは、プロジェクトウィンドウで太字で表示されます。

2.5.7 TeX 文書を追加

一つ以上の TeX 文書をプロジェクトに追加します。追加されたファイルはプロジェクトウィンドウに表示されます。

2.5.8 BibTEX 文書を追加

一つ以上の BibTEX 文書をプロジェクトに追加します。追加されたファイルはプロジェクトウィンドウに表示されます。

2.6 [ウィンドウ] メニュー

2.6.1 分割

カーソルのあるウィンドウを、分割して表示します。分割する際の規則が表示されますので、マウスで選択してください。表示されている規則をダブルクリックすると、方向を反転することができます。

縦に分割

この規則を適用すると、ウィンドウを、互いに重ならないように縦方向に分割します。

横に分割

この規則を適用すると、ウィンドウを、互いに重ならないように横方向に分割します。

2.7 [説明と情報] メニュー

2.7.1 ヘルプトピックス

WinShell についてのヘルプ文書が表示されます。

2.7.2 L^AT_EX 2_ε のヘルプ

L^AT_EX 2_ε についてのヘルプ文書（英語）が表示されます。より多くの情報が掲載されたヘルプパッケージが WinShell のホームページから自由にダウンロードできます。内容は以下の通りです。

- L^AT_EX 2_ε について
- L^AT_EX 2_ε で文書を書く人のために
- L^AT_EX についての発展的な情報
- L^AT_EX における数式と画像の扱いについて
- L^AT_EX について
- AMS-L^AT_EX について

- L^AT_EX 2_ε パッケージ制作者のために
- L^AT_EX 2_ε のフォント選択機構について
- L^AT_EX 2_ε のオプションについて
- L^AT_EX 2_ε に修正を加える
- T_EX についてのよくある質問
- BibT_EX について
- Makeindex について
- T_EX Catalogue について

2.7.3 WinShell について

WinShell のバージョンや著作者について表示されます。

第 3 章

使いかた

3.1 コマンドラインから起動する

WinShell は、以下のようなコマンドを入力することで起動することができます。

```
winshell -p project_file
winshell -c current_tex_file [-l current_line]
winshell project_file
winshell current_tex_file
```

3.2 表作成ウィザードを使う

3.2.1 ステップ 1

表作成ウィザードは、[実行]-[表の作成] から起動します。はじめに、行と列の数を指定するダイアログが開きますので、作りたい表の値を指定してください。

3.2.2 ステップ 2

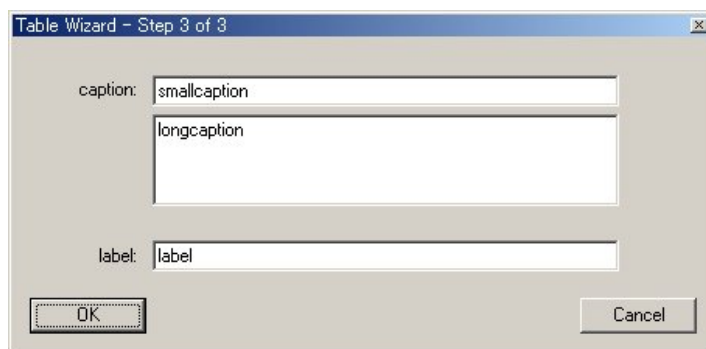
次のダイアログで、実際に表の各セルの内容を編集することができます。表の見映えを、小さなボタンを用いて変更することができます。それぞれのボタンの上で左クリックすると、ボタンが変わります。使用できるボタンと機能は以下のとおりです。

- | | |
|------------------|----------------|
| T セル内の文字列を中揃えにする | ✕ 罫線を引かない |
| ┌ セル内の文字列を右揃えにする | ┆ 縦あるいは横の罫線を引く |
| L セル内の文字列を左揃えにする | ▬ 二重線で罫線を引く |

3.2.3 ステップ3

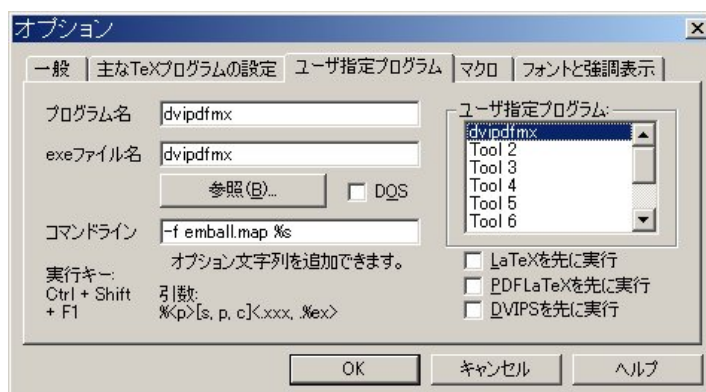
作成した表に、見出しをつけます。見出しは、目次などで表示される短いものと、本文中に表示される長いものの2つを指定することができます。また、相互参照に用いるラベルをつけることもできます。

テキストを入力して [OK] を押すと、現在カーソルのある位置に表のコマンドが挿入されます。



3.3 ツールを追加する

3.3.1 ツールの作成



ステップ1

[オプション]-[ユーザー指定のプログラム] メニューを選択すると、上図のようなダイアログが開きます。はじめに、右側のリストの中の [tool1] を選択します。

ステップ 2

指定したいプログラムの設定をおこないます。ここでは、**dvipdfmx** の設定例を示します。

プログラム名	dvipdfmx	L ^A T _E X を先に実行	チェックしない
exe ファイル名	dvipdfmx	PDFL ^A T _E X を先に実行	チェックしない
コマンドライン	% s	DVIPS を先に実行	チェックしない
		DOS	チェックしない
			(DOS ウィンドウに表示)

ステップ 3

[OK] ボタンを押します。

3.3.2 ツールをツールバーに追加する

訳注: この設定をおこなう際に表示されるダイアログでは、日本語メニューは表示されないため、[言語] を English などに変更して設定する必要があります。

ステップ 1

[Options]-[View]-[Customize] メニューを選択します。その中で [User-Programs] カテゴリを選びます。

ステップ 2

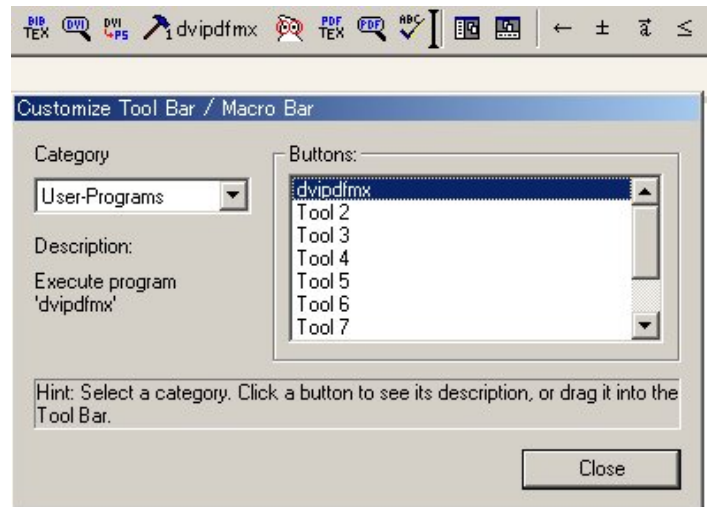
ツールバーに追加したいプログラムを、その場所までドラッグします。先ほどの例で設定した **dvipdfmx** を追加してみます。

ステップ 3

場所を決めたら、ボタンの表示形式を選ぶダイアログがあらわれます。いろいろな表示形式を選ぶことができます。試しに、[Edit] ボタンを押してみましよう。

ステップ 4

すると、ボタンの画像を編集するダイアログが開きます。画像は、自由に編集することができます。編集が終わったら、[OK] ボタンを押します。



ステップ5

編集したボタンが一覧に表示されます。もういちど [OK] ボタンを押すと、ツールバーにそのボタンが表示されます。

ステップ6

GSview ボタンとの間で、区切りを入りたい場合は、その場所までマウスカソルを持って行って右クリックします。そこで表示されるダイアログで、[Group] を選択すると、区切り線が挿入されます。

ステップ7

作業が終了したら、[Close] ボタンを押します。ボタンが追加されたツールバーは、以下ようになります。

3.4 マクロを追加する

3.4.1 マクロの作成

ステップ1

[オプション]-[マクロ] を選択し、F1 から F10 のどのキーにマクロを割り当てるか選びます。

ステップ 2

マクロの内容を記述します。ここで、<cur> というタグを使うことで、指定した位置にカーソルを移動させることができます。

3.4.2 マクロをツールバーに追加する

訳注: この設定をおこなう際に表示されるダイアログでは、日本語メニューは表示されないため、[言語] を English などに変更して設定する必要があります。

ステップ 1

[Options]-[View]-[Customize] の中から、[User-Macros] カテゴリを選択します。

ステップ 2

ツールバーにマクロがすべて表示されます。マウスカーソルを [Macro 1] に移動させて右クリックします。ダイアログが表示されますので、[Edit] を選択します。

ステップ 3

ダイアログでは、ボタンの見栄えを設定することができます。設定が終わったら、[OK] を押してダイアログを閉じます。

ここから先の作業は、前節と同じです。

3.5 ツールバーの設定

上の画面は、ツールバーにすべてのボタンを表示させている様子です。これはあまり使いやすそうに見えません。しかし、これらのボタンは、機能ごとに自由に移動させたりサイズを変更することができます。それらの設定は、WinShell 終了後も保存されます。

3.5.1 ステップ 1

ここでは試しに、アクセントツールバーをカスタマイズしてみましょう。ツールバーの把手 (1) をドラッグすれば、画面上のどこにでも移動させることができます。

3.5.2 ステップ 2

ツールバーの端をドラッグすれば、バーの形を自由に変えたり、移動させることができます。それらの設定は、WinShell 終了後も保存されます。

3.6 プロジェクトの設定

読み込みや保存といった、プロジェクト機能の使いかたは、他のアプリケーションと同様です。プロジェクト機能では、相対パスが使用できます。また、デモプロジェクトが WinShell には含まれています。

3.6.1 マウスの左ボタンの使いかた

プロジェクトウィンドウの各項目上で左ボタンをダブルクリックすることで、それぞれ以下の結果が得られます。

- 各ファイルをダブルクリックすると、そのファイルが表示されます
- 目次中の各項目をダブルクリックすると、その内容が書かれている場所へ移動します。目次には、`\chapter`, `\section`, `\subsection`, `\subsubsection` が表示されます
- 図目次中の各項目をダブルクリックすると、そのコマンドが書かれている場所へ移動します。図にラベルがない場合は、文書ファイル名と行番号がプロジェクトウィンドウに表示されます
- 表目次中の各項目をダブルクリックすると、そのコマンドが書かれている場所へ移動します。表にラベルがない場合は、文書ファイル名と行番号がプロジェクトウィンドウに表示されます
- 文献リスト中の各ラベルをダブルクリックすると、**BibTeX** ファイルのその文献のエントリへ移動します。また、ラベル内の文書ファイル名と行番号からなる項目をダブルクリックすると、その文献が引用されている場所へ移動します

3.6.2 マウスの右ボタンの使いかた

プロジェクト名の項目で右クリックすると、そのプロジェクトを活性化（作業ができるように）します。また、コマンドを実行することもできます（図 A）。ファイル名の項目で右クリック（図 B）すると、文書ファイルをプロジェクトに追加したり、指定したファイルをプロジェクトから削除することができます。ファイル名の表示は、長いままか短縮するか、切り替えることができます。目次、図目次、表目次の中の各項目を右クリック（図 C）すると、位置やファイル名などを再読み込みします。

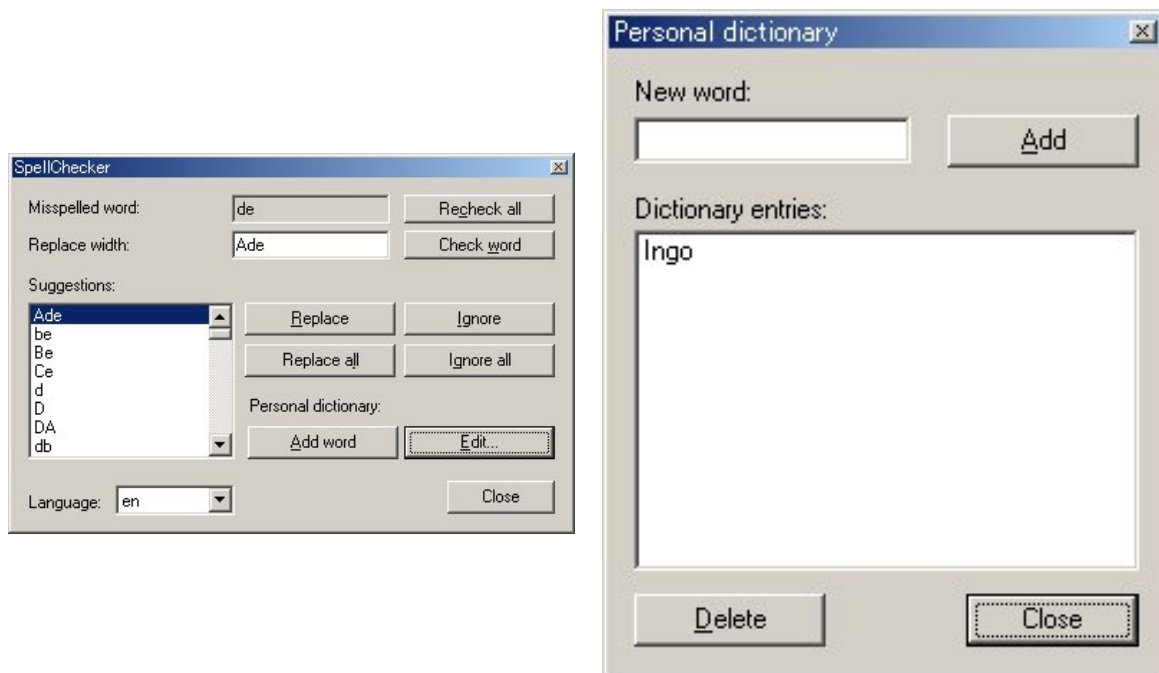


3.7 スペルチェッカーを使う

スペルチェックをおこなうには、ASpell (<http://aspell.net/win32/>) を使用します。本体^{*1}と辞書ファイル^{*2}は、脚注の URL からダウンロードできます。

文書ファイルが読み込まれると、[スペルチェック] ボタンが使用可能になります。ボタンを押すと、間違っている単語がダイアログ表示され、文書中でも強調表示されます。ダイアログでは修正候補が表示されます。ダイアログの下にある [言語] の項目で、使用する辞書の言語を指定することができます (図 3.7 左を参照)。

修正候補のリストにない単語がある場合、個人辞書を作成することができます。単語を個人辞書に追加したり、辞書を編集することができます。個人辞書は `WinShellDict.txt` という名前で、(一般的にはユーザープロファイルディレクトリに) 保存されます。保存される場所は使用している OS のバージョンによります (図 3.7 右を参照)。



*1 <http://www.ring.gr.jp/archives/GNU/aspell/w32/Aspell-0-50-3-3-Setup.exe>

*2 <http://www.ring.gr.jp/archives/GNU/aspell/w32/Aspell-en-0.50-2-3.exe>

第 4 章

今後の予定とバグ報告

4.1 今後の予定

今後の予定には、以下のようなものがあります。

- プロジェクトファイル内での検索機能の実現
- オプションダイアログの再設計
- ドイツ語キーボードのウムラウトのような (?) 柔軟なキー割当てを可能にする
- ASpell に変えて、MySpell を採用する
- 構文の誤り (カッコの閉じ忘れなど) に警告を出すようにする
- プロジェクトウィンドウから文書中に、表や図、文献を挿入できるようにする
- 文献管理のサポートを充実させる

4.2 バグ報告

どのようなものであれ、バグを報告しようとする前に、最新の WinShell を入手してみてください。また、バグ報告をする際には、以下の情報を必ず含めてください。

コンピュータについて:

どんなシステム (OS 等) で使用しているか

サービスパックのバージョンはなにか

TeX システムはなにを使っているのか (W32TeX や MikTeX など)

WinShell について:

使用している WinShell のバージョン (と公開日) はなにか

バグ報告の書式:

バグが発生する正確な手順を述べる

エラーメッセージを**正確**に述べる

再現可能あるいは繰り返し発生するかどうか述べる

他のコンピュータでも試したかどうか述べる

他のシステム（OS等）でも試したかどうか述べる

第 5 章

この文書について

5.1 日本語訳についての情報

この文書は、Windows 用の T_EX 統合環境、WinShell 3.0.0.3 の付属マニュアル (WinShell.pdf) を日本語訳したものです。訳者は、田中健太です。この文書は自由に再配布・改変してかまいません。ただし、訳者は、この文書および改変されたものを用いたことで発生したいかなる不都合にも、責任を負いません。

5.2 ご意見・ご感想

誤訳の指摘や、もっとこなれた日本語訳についてのアドバイスをぜひお願いします。ご意見・ご感想は訳者のウェブページ^{*1}の掲示板や、メールでどうぞ。

5.3 改変履歴

- 2005/11/10 ころ 和訳開始
- 2005/1/9 Ver. 1.00 完成・公開
- 2005/1/10 Ver. 1.01 コマンドラインの引数の記述において、% をそのまま用いていたため、以降がコメントアウトされていた部分を修正
- 2005/1/11 公開したとたんに、WinShell がバージョンアップ (3.1.0.0) されてへこむ
- 2005/1/12 Ver. 1.02 表作成ツールの記述において、ステップ 3 の節をまるごと書き忘れていた部分を修正

^{*1} <http://www.geocities.jp/tanaken.1018/>